平成 18 年 4 月 28 日

各　位

会　社　名　株式会社ケンウッド
代表者名　取締役社長 兼 CEO　河原 春郎
（コード番号　6765　東証　第一部）
問合せ先　財務･経理統括部長　多木 宏行
（TEL 042-646-1403）

平成 18 年 3 月期業績予想の修正に関するお知らせ

平成 18 年 3 月期(平成 17 年 4 月 1 日～平成 18 年 3 月 31 日)における単体の当期純利益が従来予想を 30%以上上回る見通しとなりましたので、その他の業績予想数値と合わせて下記のとおり修正いたします。

なお、最終的な平成 18 年 3 月期業績（連結・単体）は 5 月 19 日（金）に発表する予定で、今後の決算処理により本日発表する内容から若干の変更を生じる可能性があります。

1. 平成 18 年 3 月期（平成 17 年 4 月 1 日～平成 18 年 3 月 31 日）業績予想数値の修正

⑴単体業績予想数値の修正

（単位：百万円）

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想（A）（平成 17 年 11 月 11 日発表）	135,000	2,500	4,500
今回修正予想（B）	135,000	2,500	6,000
増減額（B－A）	－	－	＋1,500
増減率（%）	－	－	＋33.3%
前期（平成 17 年 3 月期）実績	130,412	3,768	4,708

⑵連結業績予想数値の修正

（単位：百万円）

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想（A）（平成 17 年 11 月 11 日発表）	185,000	4,500	6,000
今回修正予想（B）	185,000	4,900	6,000
増減額（B－A）	－	＋400	－
増減率（%）	－	＋8.9%	－
前期（平成 17 年 3 月期）実績	181,112	4,696	4,836

２. 平成 18 年 3 月期（平成 17 年 4 月 1 日～平成 18 年 3 月 31 日）業績予想修正の理由

⑴単体業績予想修正の理由

一部の海外子会社の業績改善にともない、過年度に計上した子会社投資損失引当金に対する戻入益が予想を大きく上回って発生する見込みとなったことから、単体の当期純利益が従来予想を上回る見通しです。
なお、この子会社投資損失引当金戻入益は単体業績にのみ計上されるものであり、連結業績には影響いたしません。

⑵連結業績予想修正の理由

棚卸資産の評価減や過年度分の特許料など、当初想定していた一過性の営業外損失が予想を下回る見込みとなったことから、経常利益が従来予想を若干上回る見通しです。
当期純利益は、戦略転換にともなうソフトウェア資産の処理や固定資産の減損処理などを実施した結果、従来予想どおりとなる見通しです。

なお、営業利益については、参考値としていた業績予想 100 億円に 1 割余り届かない見通しです。これは、カーエレクトロニクス市販市場全体で旧製品のクロージングが当社の新製品導入期まで尾を引いた影響から、年間でもっとも収益計画の高い第 4 四半期、特に 3 月度に、カーエレクトロニクス市販（オーディオ）事業の収益が、市場全体の価格下落の影響を受け、期待したほどには伸びなかったことによるものです。
しかしながら、前期の営業利益実績に対しては、2 割余りの増益となる見込みです。これは、成長戦略によるコミュニケーションズ事業の収益拡大や、戦略転換によるカーエレクトロニクス市販（マルチメディア）事業およびホームエレクトロニクス事業の損益改善によるものです。

以　上

【業績見通しに関する留意事項】

ここに記載されている平成 18 年 3 月期の業績見通しは、当社グループが現時点で入手可能な情報から得た判断に基づく将来の予想であり、実際の業績は、様々な要素により、これらの業績見通しとは大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。したがいまして、これらの見通しのみに依拠した判断をされることは控えていただくようお願いいたします。
当社グループの主たる事業活動領域であるエレクトロニクス業界は変動が激しく、技術、需要、価格、競争状況、経済環境の変化、為替レートの変動、その他の多くの要因が業績に影響を与えることがあります。当社グループの業績、その他（投資者の判断上重要と考えられる事項を含みます）に関するリスク・不確実性については、平成 18 年 3 月期中間決算短信（連結）に記載の「事業等のリスク」をご参照ください。